

現高2生へ

2014 年に向けての【学習アドバイス】 数学Ⅰ・A

Ⅰ. 基本的な問題をしっかり解くこと

教科書や予備校のテキストをしっかりと解くこと。センター試験は丁寧な誘導がついているので、特別な発想は必要なく、基本的な解法がいかに正確に身に付いているかが問われる。誘導が分かりにくいとよく言われるが、一つ一つの解法パターンが身に付いていれば、設問の意図も速やかに捉えられるはずである。レベル的には教科書の例題や章末問題、市進予備校の単元別テキストの Concept Lecture 辺りが目指すべきところであり、各分野とも抜けがないように繰り返し解くことが望ましい。

Ⅱ. 数Aをおろそかにしない

数Ⅰで学習する内容は数Ⅱ数Ⅲなどの中でも再三登場するので、まったく疎遠になるということはない。一方、数Aで学習する内容はある程度独立したものが多いため、意識して学習しないと大きく抜けてしまう危険がある。センター試験では数Aの占める割合が決して小さくなく、結果として数Aの分野で差がつきやすい。特に今年度は「平面図形」の問題での出来が高得点の鍵になったと思われる。

Ⅲ. 図を描く

2次関数や図形の問題で図をかくことは当然だが、他の分野でも図をかくことが有効な場合が多い。また、1つの図ですべて済ませようとする受験生をよく見るが、ごちゃごちゃした図はミスの素である。図はその設問に必要なことだけをかき込むようにして、見やすいものを必要に応じて、いくつもかくという姿勢で望むようにしたい。

Ⅳ. 過去問

センター試験のレベルは必ずしも一定していないので、過去問を解いてそのレベルの幅を知ることは必須である。また、設問は誘導形式になっているので、その意図を理解して誘導に乗るという姿勢が必要になる。誘導を無視して自力で解き進んでしまうと、時間のロスになるばかりか、問題の難易度も上がってしまう。センター独特の設問形式に慣れるためにも、過去問で練習を十分に積んでおくことが求められる。